

于文上^天、イヲヒキツ、クルヲミテ讀了^略○中 我朝高名只在吉備大臣、文選、圍碁野馬臺此大臣德也○中

野篁并高藤卿遇百鬼夜行事

又云、野篁并高藤卿、中納言中將之時、於朱雀門前遇百鬼夜行之時、高藤下自車夜行鬼神等見高藤稱尊勝、陀羅尼云々、高藤不知其衣中乳母籠尊勝、陀羅尼之故也、野篁其時奉爲高藤致芳意、令遇鬼神云々、

〔大鏡^四右大臣師輔〕この九條殿師輔^{藤原}は、百鬼夜行にもあはせ給へるは、何のほど云事はえうけ給

はらず、いみじう夜更て、内より出させ給ふに、大宮よりみなみざまへおはしますに、あはの、つじのほどにて、御車のすだれうちたれさせ給ひて、御車うしもかきおろせくといそぎおほせらるれば、あやしとおもへどかきおろしつ、御隨身御前ども、いかなる事のおはしますぞと、御車のもとにちかくまいりたれば、御またすだれうるはしくひきたれて、御さくとりてうつぶさせ給へるけしき、いみじき御人にかしこまり申させ給へる御さまにておはします、御車はまぢにかくな、たゞするまんどもは、ながえの左右にくびきのもとに、いとちかく候てさきをたかくをへざうしきども、こえせさすな、御前ども、ちかくあれとおほせられて、尊勝、陀羅尼をいみじうよみたてまつらせ給ふ、うしをば御車のかくれのかたにひきたてさせ給へり、さて時中ばかりありてぞ、御すだれあげさせ給ひて、今は御うしかけてやれとおほせられけれど、つゆ御ともの人々は心もゑざりけり、のちくのまかくのこのありしなど、さるべき人々にこそは、まのびてかたり申させ給ひけめど、さるめづらしき事は、おのづからちり侍りけることにこそ、〔宇治拾遺物語〕いまはむかし、修行者のありけるが、津の國までいきたりけるに、日くれてりうせん寺とて、大なる寺のふりたるが、人もなきありけり、これは人やどらぬ所といへども、そのあ